

無対他動詞の受身と 自動詞の関係

— 語義についての検討

江田すみれ

◆要旨

従 来から、対応する自動詞のない他動詞を自動詞的に使う場合は受身が使われると言われてきた。しかし、無対他動詞ならば何でも受身にして自動詞として使えるわけではない。

本稿はBCCWJの頻度の高い無対他動詞の語義と受身として使われる語義を比較した。その結果次のことが分かった。

- 1) 他動詞はすべての語義で受身が作れるわけではない。
- 2) 動詞によって、能動文でよく使われる語義と受身で使われる語義が異なる場合がある。
- 3) 動詞によって、受身で使われた場合の意味が狭い語、ずれる語がある。
- 4) 語彙的ヴォイス・中間的ヴォイス・文法的ヴォイスと無対他動詞の受身との対応は語によって異なる。

◆キーワード

無対他動詞、受身、自動詞、
語義、語義のずれ

◆ABSTRACT

In Japanese, we use transitive verbs to express operation or action of subjects, and intransitive verbs to express the results. When expressing a result with a transitive verb without a corresponding intransitive verb, we use the passive form of the verb instead of the intransitive verb. However, not all transitive verbs can express the results using the passive form. This paper discusses how we can express a result using the passive form of transitive verbs.

The study found the following: 1) Some meanings of a transitive verb can be used in intransitive passive form. Not all meanings of transitive verbs can be intransitive passive. 2) Depending on the verb, the meaning commonly used in active sentences may differ from the meaning used in passive ones. 3) Some verbs have narrower meaning when used passively. 4) The passive form has words whose meanings are different from those used in active sentence.

◆KEY WORDS

transitive verb, passive form, intransitive verb,
difference of the meaning

Passive Form of Transitive Verbs Used to Express Results

SUMIRE GODA

1 はじめに

日本語の自他動詞については数多くの研究が重ねられてきており、自他動詞と受身の関係については、庵 (2012) は「受動化は他動詞を自動詞的にする操作とも言え」る (p.136) と述べている。しかし、寺村 (1982) は「見る」について以下の例文をあげ、

(1) 彼ラハソノ日遂ニパリノ灯ヲ見タ。

(2) ×ソノ日遂ニパリノ灯ハ彼ラ ニ／ヨッテ／カラ 見ラレタ。

(例文、正誤判断 寺村 p.216)

(2) は不適當と述べている。他動詞であれば何でも受身にして自動詞として使えるわけではない。

本稿は無対他動詞を受身にして自動詞として使う場合の制約、その意味を具体的に事例にあたって検討する。

2 先行研究

2.1 自動詞・他動詞

先行研究の記述では、著者の用語に従い、受身・受け身・受動文など、いろいろな語を用いるが、それは著者に従ったもので、本稿では受身を基本とする。

奥津 (1967) は自他の対応があるということについて、自動詞は目的語をとらず、他動詞は目的語をとる、という違いはあるが (p.59)、二つの動詞について、自動 (-transitive)、他動 (+transitive) 以外、全ての文法的、意義的特徴を共有していること、と述べている (p.60)。

そして、寺村 (1982) は対のある動詞を「相対自動詞」「相対他動詞」、形態的に対応する他動詞のない自動詞を「絶対自動詞」、対応する自動詞のない他動詞を「絶対他動詞」とした (p.305)。本稿はこの無対他動詞を分析する。

2.2 受身

日本語記述文法研究会 (2009) は受身を直接受身・間接受身・持ち主の受身と3分類している。

直接受身文とは「対応する能動文の補語の表す人や物を主語として表現する受身文」で「対応する能動文の補語を前景化するものと対応する能動文の主語を後景化するもの」(p.216) がある。「対応する能動文の補語の前景化」とは、能動文の補語を主語に変え、その名詞に焦点をあてることであり、「対応する能動文の主語を後景化する」とは「対応する能動文の主語を事態の叙述の中心からはずしたり、文中から消去したりすること」(p.217) としている。直接受身文は「基本的に、文中の名詞の数を増減させない」(p.219)。

間接受身文とは「対応する能動文の表す事態には直接的に関わっていない人物を主語とし、話し手がその人物と事態を主観的に関係づけ、事態と間接的な関係をもったものとして表現する受身文である」(p.217)。

持ち主の受身文とは「対応する能動文のヲ格名詞やニ格名詞などの表す人や物の持ち主を主語として表現する受身文」(p.218) と定義されている。

2.3 受身と自動詞

益岡 (1987) は、受動文を昇格受動文と降格受動文に分類している。昇格受動文は「或る存在が或る出来事の結果として心理的あるいは物理的影響を被る」「受影受動文」と「或る対象が或る属性を有している」ことを表す「属性叙述受動文」からなる (p.183)。それに対して、動作主を背景化することを目的とするのが降格受動文で、降格受動文では降格された「動作主は表面に現れないのが原則」(p.191) であり、「自発性を表す適当な自動詞表現」がない場合「降格受動文がその穴を埋める機能を果たすことがある」(p.192) としている。益岡 (1987) は降格受動文が自動詞的な役割を果たすと述べている。

志波 (2015) も、受身構文を主語と行為者の有情非情の別によって1) 有情主語有情行為者構文、2) 有情主語非情行為者構文、3) 非情主語一項構文、4) 非情主語非情行為者構文の4つに分類し、有情主語有情行為者受身構文と非情主語一項受身構文は、それぞれ、「益岡 (1982) の受影受動文と降格受動文に、

その外延がおおよそ重なる」(p44)と述べている。

野田(1991)は文法的なヴォイス、中間的なヴォイス、語彙的なヴォイスの違いを述べている。文法的なヴォイスは(R)ARE、(S)ASEという生産的な接辞によるヴォイス、中間的なヴォイスは動詞の自他対応、語彙的なヴォイスは「死ぬー殺す」などの、形態的には共通する部分がなく、意味的、構文的にヴォイスの対立を示す語の関係としている。それぞれの役割分担は、語彙的ヴォイスが優先され、それがカバーできない部分を動詞の自他対応が、さらに自他対応がない語の場合、文法的なヴォイスが対応するとしている(pp.223-225)。野田(1991)は下の例文をあげ、

- (3) 風船が割れる。
- (4) 風船が割られる。

(3)の中間的ヴォイスにおいては行為者の存在が意識されないが、文法的ヴォイスにおいては行為者の存在が見られるとしている(p.226)。本稿で取り上げる無対他動詞の受身は文法的ヴォイスと中間的ヴォイスをまたぐものと言える。

庵(2018)は、「直接受身は二項述語における影響の受け手を主語にした自動詞相当の表現で、自動詞文と直接受身文は一項述語の文である点において共通であり、違いは(6)のように、直接受身では下線部が「押す+れる」のように分析可能である」こととしている(p.16,p.20)。

- (5) 私は(石につまずいて、) 転んだ。
- (6) 私は電車の中で押された。 (庵2018:20)

確かに、この説明は実践的で分かりやすく、学習者の非用をふせぐ効果がある。しかし、最初にあげた寺村の疑問にはこの説明だけでは答えられない。本稿では受身と文法的・中間的・語彙的ヴォイスの関係についても考察する。

2.4 直接受身・間接受身・持ち主の受身・自動詞的受身

本稿では益岡(1987)の降格受身文の考え方をういて無対他動詞の受身を分

析する。益岡(1987)は降格受動文としているが、本稿ではここまで受身と述べてきたので、益岡の受動文を受身文として用語を使うことにする。

降格受身が自動詞的な役割を果たすことと直接受身・間接受身・持ち主の受身の関係については、日本語記述文法研究会(2009)が整理している。

日本語記述文法研究会(2009)は直接受身を[有情物、有情物]型、[有情物、無情物]型、[無情物、有情物]型、[無情物、無情物]型と4つに分類し、これらの中で[有情物、有情物]型、[無情物、有情物]型の中に能動主体を背景化することを動機とするものがあるとしており、それらは項を一つ減らす受身であると述べている(p.228,p.231)。そしてこれらの直接受身と自動詞については「文中に表現される名詞の数が1つ減り、結果的に自動詞文と似た文型をとる場合がある」(p.235)としている。

以下、本稿は受身文を直接受身、間接受身、持ち主の受身、自動詞的受身と4分類する。自動詞的受身は益岡(1987)の降格受身にあたり、項の数が減る受身である。実際には直接受身の中に昇格受身と降格受身が存在するが、本稿では、益岡(1987)の昇格受身に当たる、主語が影響を被る受身を直接受身とする。

本稿の定義は以下のとおりである。

直接受身は能動文が想定できるもので、影響を受ける側を主語にすることが目的の受身である。行為者が文面に現れていない場合でも行為者が想像できるものを直接受身とした。それは(7)のように受身になってもヲ格が残る場合もあり、自動詞的受身とは言い切れないと判断したためである。

- (7) 反対尋問の場合は何を聞かれるか分からない。言葉は丁寧だが鋭い質問の連続に、 <直接受身>
- = (8) (検事が) 何を聞くか。

間接受身は主観的に事態を主語の人物と関係させる受身であり、主語と補語を入れ替えて能動文にできないものである。間接受身は日本語記述文法研究会(2009)で「文中の名詞の数が1つ増える」(p.237)受身であるとされており、自動詞的受身の考察の対象にはならない。

(9) ウドン 都合が悪いこと。ソバに聞かれてはまずい人がいる場合に使う。「ちょっとウドンだから、後でな」 <間接受身>

(9) は一方的にそばの人が自分の話を聞くことを問題にしており、間接受身である。間接受身は主語の立場から事態を捉えなおす文で自動詞文の場合も他動詞文の場合もあるため、自動詞的受身について検討する対象とはしにくい。

持ち主の受身は持ち主を主語にする受身文である。(10) では「私の能力」の「私」が受身文の主語になっている。これも他動詞文が出現するため、自動詞的受身の考察の対象とはならない。

(10) 借入れができれば、公庫以外でも考えられるが、何を基準に借入れ能力をみられるのでしょうか。 <持ち主の受身>

自動詞的受身は益岡(1987)の降格受動文にあたる文で、行為者が不特定多数であったり行為者を表現することに価値が置かれなかったりする受身であり、対応する能動文に対し項が1つ減る。あるいは対応する能動文がない。

(11) 原発反対というのなら電気を使うのをやめたらどうだという声も聞かれた。 <自動詞的受身>

(11) は「声があがった」「意見があった」に相当し、自動詞的受身である。この文には対応する能動文は考えにくい。庵(2018)が受身は基本的に自動詞であると定義しているのに、あえて自動詞的受身という用語を使うのは、上に述べたヲ格をとる直接受身や持ち主の受身などと区別して明確に自動詞である受身を取り上げたいと考えたためである。自動詞的受身という分類をすることで、(12)と(13)の例の違いが明らかにできるのではないかと考える。

(12) 人間をポリスの動物と呼んだアリストテレスと呼応するような言葉がモンテーニュに見られる。 <自動詞的受身>

(13) 窓の外に富士山が見える。 <自動詞>

2.5 話し言葉・書き言葉と受身

話し言葉と書き言葉の受身については江田(2013)が会話・ブログ・新書のコーパスを用いて調査し、新書では会話と比較して降格受身が多いことを述べている。本稿の対象とする自動詞的受身は項を1つ減らす降格受身となるため、今回の資料は書き言葉とする。

2.6 動詞の多義性と自他の対応

使用頻度の高い動詞には多義の動詞が多い。辞書によって語義の数は異なるが、補助動詞をぬいても、「する」は『三省堂』に15、『明鏡』に18、「見る」は『三省堂』に12、『明鏡』に17と、多くの語義があげられている。これらの語義はすべて受身になるのであろうか。寺村(1982)は、相対自他動詞では、一見形態的に対応しているように見えても意味的に対応していない場合があり、それらは絶対自動詞・絶対他動詞と見たほうがよいと述べている。

本稿は、形態的に対応しているように見えるが意味的には対応していない語義と受身の関係も検討する。

3 調査方法

書き言葉の受身を対象とするため、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下BCCWJと表記する)を用い、Tono et al. (2013)によるBCCWJ語彙表の動詞表に従い、高頻度の無対他動詞について使用状況を調査した。

高頻度動詞は、上から順に、1.言う、2.する、3.ある、4.なる、5.思う、6.行く、7.来る、8.見る、9.やる、10.いる、11.できる、12.持つ、13.出る、14.考える、15.分かる、16.入る、17.作る、18.聞く・聴く、であった(p.331)。

検索対象は、大学で学ぶ学習者が専門書を読む時に必要な表現ということで、出版書籍の社会科学・自然科学とした。

以下の理由によって、下の語は今回の対象としなかった。動詞の第2位の「する」は漢語+するの形式で別に扱うほうがよいと判断した。第5位の「思う」は辞書(『三省堂』)に自他と表記されていた。第9位「やる」は「やられち

やった」などの口語的な表現が多く見られたので今回の調査とはそぐわない語であると判断した。「考える」は「考えられる」が受身か可能か分かりにくい。

一方、「見る」は「見える」と対になるが、「見られる」という形もよく目にするので、対象とした。

対象とした語は「見る」「持つ」「作る」「聞く」である。

辞書は、『明鏡』は語義の分類が細かく項目間の違いを整理する時に主観が入りそうなので、基本的に、分類が少し大まかな『三省堂国語辞典』を用いた。それぞれの語の補助動詞用法には触れなかった。

4 他動詞の受身用法

4.1 語の出現状況

中納言を用い、短単位、語彙素読み「ミル」「モツ」「ツクル」「キク」で検索し、そのうち100語の意味を辞書の記述に従って分類した。一方、文字列検索で「見られ」「持たれ」「作られ」「聞かれ」と受身形で検索し、それらについても動詞の意味を確認した。その上で受身の中で自動詞的受身として読める例について検討した。精査はしていないが、動詞の出現数、受身の出現数を表1に示した^[註1]。表1の動詞の出現数には受身の場合も含み、「受身」には自動詞的受身以外も含んでいる。

動詞によって、受身になりやすい語、なりにくい語があることが分かる。「作られ」は399例出現したが、そのうち200例を分析した。

4.2 「見る」

「見る」は社会科学・自然科学ではどのような語義がよく使われているか、10111件中、100例選んで資料とした^[註2]。

「見る」は「1.目で感じて知る(以後目で感じる)」「7.考える、判断する(以後判断)」「5.読む」「4.確かめる、検討する(以後確認)」の用法が多い。

表2 「見る」の意味

	意味	数
1	目で感じて知る	33
2	眺める、見物する	5
3	調べて良しあしを決める	1
4	確かめる、検討する	14
5	読む	17
6	うらなう	0
7	考える、判断する	23
8	考えに入れる、見込む	0
9	世話をする	1
11	経験をする	6
	合計	100

表3 「見る」受身の種類

種類	数
直接受身	9
持ち主の受身	1
自動詞的受身	135
合計	145

表4 「見られる」の「見る」意味

	意味	数
1	目で感じて知る	121
2	眺める、見物する	0
3	調べて良しあしを決める	1
4	確かめる、検討する	0
5	読む	0
6	うらなう	0
7	考える、判断する	23
8	考えに入れる、見込む	0
9	世話をする	0
11	経験をする	0
	合計	145

「見られる」の例は148例であったが、可能か受身かが分かりにくい例が見られ、それは検討対象に含めなかった^[註3]ので、分析対象は145例である。

そして145例中、直接受身と理解できた例は以下のような9例であった。

(14) 自分に責任を持って行動できると他人から見られるようにするための技術を幾つか提案しました。

(14) は行為者が「他人から」と表示されており、直接受身と理解できる。以後、紙幅の関係で直接受身の例は提示しない。

145例中、自動詞的受身と読める例は135例であった。

受身で使われる「見る」の意味を表2と同様の基準で分類した(表4)。「見られる」で用いられる意味は「1.目で感じる」「7.判断」であり、それ以外の意味は受身になりにくいようである。

「1.目で感じる」の例文は以下のようなものである。

(15) 公庫廃止(民営化)を唱えている人達に多くみられる。

(16) 否定的評価は、十九世紀後半から二十世紀初頭の改革者に典型的にみられ、それがマシーン打倒の運動へとつながっていったのである。

(15) (16) では、「見る」の具体的な行動は抽象化され、「ある」「存在する」という意味になっている。

また、(17) の「と見られる」のように「推測される」の意味での用法^[註4]、「～にみられる現象・例」のように例示として用いられている使用例 ((18) (19)) も見られた。

(17) さらに、グアテマラのティカルにおいては、祭祀センターと見られるアクロポリス形式の建築物群が建造されている。(=と推測される)

(18) 日本でも千九百八十年代になると、女子雇用者の比率の上昇にみられるように、「労働力の女性化」が進んでいく。(=の例のように)

(19) 諸活動、ならびに死亡、傷害および広範に渡る財産破壊をもたらす爆破および放火に見られる、北アイルランド事件に関する一連のテロ行為のキャンペーンがあった。(=の例のように)

表5はどの意味が今回の資料でよく使われていたかを表したものである。「存在」が多いが、推測もある程度見られる。

「見られる」は動詞のいくつかの意味によってだけ受身が作られる。また、自動詞的受身としては、「目で感じる」というより、「存在」「例示」「推測」などの別の意味を表す。

「見られる」は「見る」「見える」と比べ、単純に目に映るという意味ではなく、「存在」「推測」などの別の意味を表現しており、文法的ヴォイスというより語彙的ヴォイスに近い意味を持つと言える。

表5 「見られる」の意味別使用数

意味	数
存在	109
推測	24
例示	2
合計	135

4.3 「持つ」

「持つ」100例の意味分類は表6の通りである。「5.たもつ」「3.自分のものにする(以後所有)」「8.ある気持ちを心に抱く(以後気持ち)」「11.認められる、備わる」「9.相手と関わるようになる」の意味が多かった。

「3.所有」「5.たもつ」「11.認められる」の意味の区別は以下のようである。

本稿では「手に入れる過程を経て自分のものにする」という意味を「3.所有」とした。「資格・財産」などと共に使っている場合、「3.所有」と分類した。「獲

得する」という意味でなく「元来持っている」「維持する」にあたる例を「5.たもつ」とした。「資質・障害」などと共に使われている場合である。「根拠・裏付け」などと共に使われた場合は「11.認められる」に分類した。

続いて受身を見ると、「持たれる」60例中、直接受身は17例、間接受身は2例、自動詞的受身は41例であった(表7)。紙幅の関係で直接受身の例は出さない。

「持たれる」の受身は表8のように、「8.気持ち」「10.開く、行う(以後開催)」の意味に偏っており、「持つ」の基本義である「1.手でにぎる」の意味や「5.たもつ」の意味では用いられない。

(20) 各社に対しては、持株比率を二十%未満に押さえて、関連会社にもしていない点にも疑問がもたれる。

(21) 有効な介護が行われることによって医療に頼っていた高齢者の生活に変化が現れることに期待がもたれる。

「8.気持ち」の意味は受身になると、「疑いがある」「期待できる」というように、ある気持ちや感情がひとりりて出てくるという自発の意味の受身になっている((20) (21))。自発については、寺村(1982)の研究もあるが、仁田(1997)

表6 「持つ」の意味

	意味	数
1	手でにぎる、手に取る	0
2	身につけておく、携帯する	0
3	自分のものにする	18
4	家族や友人を得る	1
5	たもつ	35
6	受け持つ	2
7	負担する	0
8	ある気持ちを心に抱く	18
9	相手と関わるようになる	12
10	開く、行う	1
11	認められる、備わる	13
	合計	100

表7 「持たれる」受身の種類

種類	数
直接受身	17
間接受身	2
自動詞的受身	41
合計	60

表8 「持たれる」の意味

	意味	数
1	手でにぎる、手に取る	0
2	身につけておく、携帯する	0
3	自分のものにする	0
4	家族や友人を得る	0
5	たもつ	0
6	受け持つ	0
7	負担する	0
8	ある気持ちを心に抱く	44
9	相手と関わるようになる	0
10	開く、行う	16
11	認められる、備わる	0
	合計	60

は自発を「その事態がおのずから生じたもの」と定義し、〈自発的受身〉は思考・認知動詞や感情動詞によって作られると述べている (p.13)。「持つ」は「8.気持ち」の意味では感情動詞として使っていることになり、受身が自発になるのであろう。

「10.開催」の意味では以下のような例が見られた。

(22) 「中央社会福祉協議会」の呼びかけによって、全国各地で「としよりの日」の催しがもたれた。

(23) 会議は、特別な議題がない限りは、四半期または半年に一度の会合がもたれている。

表9は「持たれる」の意味の分布を示している。この二つの意味の文は、出現数が同じようにあるので、どちらも使えるほうがいいことが分かる。他動詞「持つ」が受身になると、「気持ち (ある感情がひとりで出てくる)」「開催される」という使い方がされるということは直接的には意識化しにくい。また、能動文では「10.開催」という使い方はかなり少ないのに対し、受身ではこの使い方が多くなる。

表9 「持たれる」の意味別使用数

意味	数
8.気持ち	25
10.開催	16

「持つ」はその一部の意味によって自動詞的受身が作られ、能動文で使われる意味と受身で使われる意味が異なっている。また、受身にした場合、自発の意味になる、会合が行われるなど、意味が狭くなる語である。

直接受身が受身60例中17例あり、「持つ」は文法的ヴォイスとしてある程度使われていると言える。しかし、自動詞的受身について見ると意味の偏りが大きく、語彙的ヴォイスに近い用法があると言えよう。

4.4 「作る」

「作る」を『三省堂』を用いて分類しようとしたが、大きな建造物を「造る」意味が記述されていないため、別の辞書、『例解新国語辞典』を用いた。「1.新しいものをこしらえる (以後作成)」「2.いろいろなものをくみあわせて大きなものを造る (以下建造)」「3.材料を加工してものをこしらえる (以下加工)」が多い。

「作られる」は約400例見られ、受身の割合は他の動詞に比べて高いと言える。本稿では200例を確認した。

受身でも「1.作成」「2.建造」「3.加工」の意味が用いられており、それ以外はほとんど使われていない点は能動文と同様である。

直接受身・自動詞的受身の関係では、直接受身と読めるものの割合は高くない (表11)。

「作られる」を「作る」の意味で分類すると表12になる。「1.作成」の意味が多い。

「作る」という動作は意図をもってあるものに作り上げる作業である。これを受身で使うと、(24) (25) のように行為者には焦点があたり、出来上がったこと、結果に焦点があたる。

(24) 人間が人工的に作り出した最強の毒としては、ゴミ焼却時に作られるダイオキシンが知られているが、それでも毒性は一・六万倍であるこうして

(25) 森林は、落ち葉の堆積層から作られた腐葉土を通過することによって鉄分を含んだ栄養素のある水を

表10 「作る」の意味 (『例解国語辞典』)

	意味	数
1	新しいものをこしらえる	67
2	材料を加工してものをこしらえる	12
3	いろいろなものをくみあわせて大きなものを造る	15
4	そだてあげる、野菜や果物を生産する	2
5	苦心して用意する	0
6	ある形にする	3
7	化粧をする	0
8	ほんとうはそうではないのに、わざとこしらえる	1
	合計	100

表11 「作られる」受身文の種類

種類	数
直接受身	13
自動詞的受身	187
合計	200

表12 「作られる」の意味

	意味	数
1	新しいものをこしらえる	162
2	材料を加工してものをこしらえる	11
3	いろいろなものをくみあわせて大きなものを造る	24
4	そだてあげる、野菜や果物を生産する	2
5	苦心して用意する	0
6	ある形にする	1
7	化粧をする	0
8	ほんとうはそうではないのに、わざとこしらえる	0
	合計	200

(24) (25) は、意図的な行為者は読み取れず、どちらも「できる」に置き換えが可能である。「作る」は意志的な行為だが、「作られる」にすることにより、完成したもののことに焦点があたり「できる」の意味になる。しかし、意味的には受身にした時に能動文で用いる意味と大きく異なることはない。

4.5 「聞く」

「聞く」は「1.音・声などを耳で感じる・話を聞いて理解する（以下耳で感じる）」「3.相手の考えを知るために質問する（以下質問）」「2.聞いて承諾する」の順に使われている（表13）。

「聞かれる」は直接受身の割合が他の語と比べて高い（表14）。「聞かれる」は表15で見ると、「3.質問」が「1.耳で感じる」の約2倍あった。質問は質問を受ける側から表現する表現法がよく用いられるということであろう。それぞれの受身の意味と重ね合わせると、「質問する」はすべて直接受身であった。一方、「1.耳で感じる」は自動詞的受身と少数の間接受身になることが分かる。間接受身は今回は考察の対象としない。

(26) 九十九年の暮れ頃から「eマーケットプレイス」という言葉が聞かれ始め、最近では新聞でも時折見受けられるようになった。

(27) 韓国では三百八十六世代ということばがよく聞かれます。三百八十六世代とは、年齢が三十代、大学入学年度が八十年

「聞かれる」は受身になると、「音や発言を聞く」の意味をもっと拡大し、「一般に受け入れられる」(26)「ある表現が広まる」(27)のような意味で用いられるため、意味が拡大したりずれたりしていると考えられることができる。

「聞く」では「3.質問」の意味は直接受身になり、「1.耳で感じる」は「一般的に受け入れられる」の意味になるというように、意味によって受身にした場合に現れ方にはっきりとした違いが見られる語である。

「聞く」は意味によって「質問される」という文法的ヴォイスと「一般的に受け入れられる」という語彙的ヴォイスに近い用法に分かれていると言えよう。

表13 「聞く」の意味

	意味	数
1	音・声などを耳で感じる、話を耳で感じる	80
2	聞いて承諾する	6
3	相手の考えを知るために質問する	14
	合計	100

表14 「聞かれる」受身の種類

種類	数
直接受身	97
間接受身	2
自動詞的受身	50
合計	149

表15 「聞かれる」の意味

	意味	数
1	音・声などを耳で感じる、話を理解する	52
2	聞いて承諾する	0
3	相手の考えを知るために質問する	97
	合計	149

5 まとめと考察

他動詞の受身が具体的にどのように自動詞として用いられるかをいくつかの動詞を例に検討した。そこで分かったことは

- 1) 他動詞はすべての語義で受身が作れるわけではない。
- 2) 動詞によって、能動文でよく使われる語義と受身で使われる語義が異なる場合がある。
- 3) 動詞によって、受身で使われた場合の意味が狭い語、拡大する語、意味のずれる語がある。
- 4) 文法的ヴォイス、中間的ヴォイス、語彙的ヴォイスと無対他動詞の受身との対応は語によって異なる。

使用頻度の高い語はよく目にする語であり、自動詞的受身も、一旦学習者が認識すれば理解はそれほど難しくない可能性がある。他動詞と自動詞的受身とで意味が違うことがあるということを意識する必要はないだろうか。

「見る」「持つ」のように受身にした場合、能動文と意味が異なる語がある一方、「作る」のように単純に受身にできる語もある。意味の異なる語はどの程度あるのだろうか。検討対象の語を増やし、考えたい。

文法的ヴォイス、中間的ヴォイス、語彙的ヴォイスについては今後の課題としたい。

〈國學院大学／聖心女子大学〉

注

- [注1] …… 「見る」は補助動詞の「てみる」、「ミル」(人名)、「持つ」は「モツ」(内臓)、「きく」は「キク」(人名・花)「菊」「利く」「規矩」を除外した。
- [注2] …… 同一の資料からの例が重ならないようにした。
- [注3] …… 受身か可能か分かりにくかったのは次のような例である。
・遠方から聞こえる声になり得るため、稀ではあるが猫よりは見られる
- [注4] …… 志波(2009)はこのような「とみられる」は推定を表すモダリティ表現であるとしている。

参考文献

- 庵功雄(2012)『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
- 庵功雄(2018)『一歩進んだ日本語文法の教え方2』くろしお出版
- 奥津敬一郎(1967)「自動化・他動化および両極化転形-自他動詞の対応」須賀一好・早津恵美子(編)(1995)『動詞の自他』pp.57-81. ひつじ書房
- 江田すみれ(2013)「テキストの違いと受身文の違い-会話・ブログ・新書の受身の使われ方をもとに」『テキストにおける語彙の分布と文章構造 成果報告書』pp.13-30. 国立国語研究所
- 志波彩子(2009)「ヴォイスからモダリティへー「と見られる」を例に」『日本語文法学会第10回大会予稿集』pp.158-165. 日本語文法学会
- 志波彩子(2015)『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』和泉書院
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
- 仁田義雄(1997)「自発的受身」『日本語研究』pp.12-27. 東京都立大学国語学研究室
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法2 格と構文、ヴォイス』くろしお出版
- 野田尚史(1991)「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイス」仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』pp.211-232. くろしお出版
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版
- Tono, Y., Yamazaki, M., & Maekawa, K. (2013) *A Frequency Dictionary of Japanese*. New York: Routledge.

辞典

- 北原保雄他(2010)『明鏡国語辞典』第二版 大修館書店
- 見坊豪紀他(2014)『三省堂国語辞典』第七版 三省堂
- 林四郎他(1997)『例解新国語辞典』第五版 三省堂